

未来医療研究人材養成拠点形成事業 申請書

申請担当大学名 (連携大学名)	名古屋市立大学 (名古屋学院大学、名古屋工業大学) 計3大学		
テーマ	テーマB	申請区分	共同事業
事業名 (全角20字以内)	地域と育む未来医療人「なごやかモデル」		

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵1枚)を【様式2】の後ろに添付すること。

(1) 事業の全体構想 (資料の図1参照)

①事業の概要等

<p>〈テーマに関する課題〉 病院診療から在宅診療への医療ニーズのシフトは、単なる人口高齢化対策ではなく未来医療へのトレンドと考える。これからの総合診療医は、質の高いエイジング・イン・プレイス (AIP) 社会を実現する医学・医療の担い手となる必要があり、以下の能力を持った人材の養成が必要である。</p> <ol style="list-style-type: none"> AIPのための多職種協働とICTによる保健・医療・福祉システムの構築 AIPコミュニティの質を保証する疫学研究、医工連携研究とエビデンスの発信
<p>〈事業の概要〉 (400字以内厳守) 学生や若い人材が住民と協働しエイジング・イン・プレイス (AIP) コミュニティづくりに取り組む実践研修の場を、超高齢化の先行する名古屋市内最大のUR団地に形成し、医・薬・看・リハビリ・工学の学部・研究科、大学病院が連携して、AIP社会の医学・医療の発展と向上を担う人材を養成する。卒前教育、初期・後期研修、大学院2コースを含む5つのプログラムを開設し、一貫した多職種連携教育を通じて、AIPに必要な地域診断、地域再活性化から、ICTによるチーム在宅医療・包括ケアシステムの構築に至る総合的な課題解決能力を持った総合診療医、コミュニティ・ヘルスケア指導者、ICT医工学の実践的リーダーを育てる。地域にコミュニティ・ヘルスケア教育研究センターを置き、教育指導、疫学や医工連携研究の指導、地域医療人のキャリア支援を行う。これにより各地に質の高いAIP社会を形成し、後継の育成に貢献する有能な人材を輩出する。</p>

②新規性・独創性

<p>1) AIPコミュニティづくりを通じた実践研修 多職種協働とICTによって質の高いAIPのための保健・医療・福祉システムを構築する能力を育成するには、実際のコミュニティでシステムづくりを実践する研修が必須である。本事業では、共同申請を行う3大学がAIPコミュニティ形成計画を進める名古屋市緑区鳴子団地を実践研修の場として、人材育成システムを構築する。</p> <p>2) AIPコミュニティの質を保証する研究とエビデンス発信能力の育成 AIPを高齢化対策に終わらせず、医学・医療の進歩に繋げるためには、AIPの質を向上する研究・開発が必要であり、これを総合診療医の役割として位置づける。本事業では新設するコミュニティ・ヘルスケア教育研究センターを中心に、老化抑制・介護予防の疫学や介入研究、医工連携研究を推進し、研究へのモチベーションと実行力のある人材を輩出する。</p>

3) 卒前卒後を一貫した多職種連携教育

在宅医療、地域包括ケアには多職種協働が不可欠であるが、効果的な多職種チームワークにはリーダーシップのみでなく権威勾配を生じないチームマインドが重要である。本事業では、入学後早期から卒後研修、大学院コースに至るまで一貫した多職種連携教育を行い、チームワーク能力とチームマインド、多職種が協働するキャリア・イメージの育成を行う。

4) 医工学との連携教育

医療・福祉ICTはAIPコミュニティの基盤要素であることから、医療人のICT活用能力と医工学者の医療・福祉マインドの育成が必要である。また、ICT医工学はAIPを目指す医学・医療の中心的研究分野のひとつになると考える。そこで、医工学を専攻する学生・研究者を医療研修チームに加えることで、医療と工学の双方向教育を誘導する。これによってICTによる問題解決能力の育成とともに、AIPのための医工連携研究を推進する人材やチームを養成する。

③達成目標・評価指標

達成目標

AIP社会の医学・医療の発展と向上を担う総合診療医、コミュニティ・ヘルスケア指導者、ICT医工学の実践的リーダーの養成

評価指標

1) 受入れ人数 (5年間)

1. 総合診療専門医研修プログラム 50名
(中部圏に63か所あるオールタウン化した地区の8割に対応可能な総合診療医数)
2. コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース 110名
3. ICT医工学の実践的リーダーの養成 32名
4. コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム 1,495名
5. 在宅医療・地域包括ケア研修プログラム 84名

2) 育成される人材の業績 (5年間) AIP関連研究の発表論文 200編

3) AIPコミュニティの形成 (年間)

1. 多職種協働チームによる在宅終末ケア 年間48件(地域の予測死亡者数115人の42%)
(42%は、2040年のわが国の死亡者数に対する在宅看取りが必要な比率)
2. 大学とコミュニティとの信頼関係の醸成による在宅医療剖検の実施

4) 実践研修地域での活動 (年間)

1. 住民調査 1,600人(全住民の80%)
2. ヘルスプロモーションへの住民参加 600人(全住民の30%)
3. 「暮らしの保健室」の相談対応件数 200件
4. 多職種協働チームによる高齢者支援 100件
5. 多職種協働チームによる在宅医療・介護 80件

④医学生・男女医師のキャリア教育・キャリア形成支援 (※取組がない場合は記入不要)

1) 卒前卒後キャリア教育

入学後早期から卒後までの一貫した多職種連携教育を通じてAIPコミュニティづくりに参画させ、地域で働くことのキャリア・イメージと使命感を育成する。

2) 地域にキャリア支援室を新設(コミュニティ・ヘルスケア教育研究センター内)

キャリア・コーディネータが主体となり、各職種のキャリア・アドバイザーと連携し、相談者のライフスタイルに合わせた多様な就労スタイルやキャリア形成をサポートする。

3) 地域における睡眠医療人材の復職支援(福祉系NPOと連携した地域サポート体制)

1. 子育て期間の支援(地域保育施設でのアフタースクールケア、病児対応も行う)
2. 介護期間の支援(地域連携福祉施設でのデイケア、ショートステイ)
3. 定年後のセカンドキャリア

4) 在宅医療の特徴である24時間365日のチーム医療体制を生かしたフレキシブル勤務の提供

1. 裁量労働制勤務 2. 夜間勤務 3. 週末勤務 4. 季節勤務

5) 医療人としてのモチベーションと診療活動の支援

1. 大学病院の専門チームによるバックアップ(ICT情報共有システム)
2. 専門別在宅医療チームによるサポート(高次脳機能評価、運動機能評価、口腔ケア、嚥下・栄養支援、緩和ケア、ICT支援)
3. 学び直しプログラム、連携カンファレンスによる医療知識のアップデート
4. スペシャリティの拡大・変更のための再教育コース(eラーニングを含む)

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】 (資料の表参照)

2. 事業の実現可能性（資料の図2参照）

（1）事業の実施体制

1) 事業に関する意思決定組織

名古屋市立大学学長室に「未来医療人材養成プロジェクト委員会」を置き、事業の企画・運営、全ての教育プログラムおよびコースの統括管理を行う。構成員は、名古屋市立大学医療系学部連携教育委員会、同大学病院総合研修センター、名古屋工業大学コミュニティ創成教育研究センター、名古屋学院大学リハビリテーション学部および経済学部（総合政策学科）、コミュニティ・ヘルスケア教育研究（CHC）センター（本事業で設置）、福祉系NPO法人たすけあい名古屋を含む。下部組織として、大学連携部会、カリキュラム委員会、広報委員会、予算委員会を置き、個別課題の検討結果の報告を受ける。

2) 大学の地域参画拠点

地域にCHCセンターを置き、「キャリア支援室」および「暮らしの保健室」の運営、在宅医療・包括ケア研修の実施、研究指導を担当する。地域療養医学、地域療養薬学、地域療養生活看護学、地域リハビリテーション学、地域ヘルスケア工学の教員計5名（センター長、キャリア支援室長、暮らしの保健室室長を兼務）、キャリア・コーディネータ1名、事務員3名を配置する。

3) 地域の行政・保健・医療・福祉機関との連携協議会

「未来医療人材養成事業地域連携協議会」を置き、連携大学、CHCセンター、たすけあい名古屋、医師会、連携病院、名古屋市療養サービス事業団、UR中部支社、緑区区役所、名古屋市健康福祉局、住民代表を構成員として地域連携を推進する。

4) 補助期間終了後の継続

名古屋市主導の産官学連携によるAIPモデル・コミュニティ事業としての発展およびフィールドを未来医療の技術やシステムの実証に活用する未来医療デザイン寄付講座の設置を検討する。

（2）連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

1) 超高齢団地と大学との連携のメリット

名古屋市緑区UR鳴子団地は開発から45年を経た2000戸を超える「オールドタウン」で、高齢化率44.1%、半数が独居世帯である。今後、介護需要の急増が予測され、当団地居住者の民間施設などへの転出は経済的に困難なためAIP化が喫緊の課題であるが、自治会がなくコミュニティの結び付きが希薄で、地域の活力も急速に低下している。一方、住環境は良好で各種公共施設や交通も整備されコンパクトシティの構築条件が整っている。平成23年にUR中部支社と地域NPOより、同地区を人材育成の場に活かすことで、地区を再活性化しAIPのモデル・コミュニティにするとの提案があり、名古屋市立大学は学生参加によって高齢者の社会参加や交流を促進しかつ高い教育効果を得ていることから、本事業は地域と大学の双方にメリットをもたらすプロジェクトとなる。

2) 名古屋学院大学との連携のメリット

名古屋学院大学経済学部は以前から鳴子地区の町づくりに参画している。また在宅医療には理学療法士との協働が必要であることから、同大学リハビリテーション学部と連携し多職種連携教育を実現する。さらに同学部はサルコペニア対策のための運動機能評価およびヘルスプロモーション教育に注力しており、事業の重要な教育資源となっている。

3) 名古屋工業大学との連携のメリット

AIPには多職種協働のための実時間情報共有、安否管理や超早期診断のための生体情報在宅モニタリング、医療介護ロボティクスなどICT医工学の活用と発展が必須である。医工学技術者は今後の医療チームの必須メンバーとなるが、そのためには医療と医工学が連携した双方向教育による人材育成が有用である。この事業では、名古屋工業大学との連携によりこれを実現する。また同大学のコミュニティ創成教育研究センターは在宅医療のICT分野をリードしており、この事業の実習・研修とその指導に日常的に使用する情報インフラの構築を担当する。

（3）事業の評価体制

1) 事業評価委員会の開催（毎年年度末）

委員会構成員：医学教育、地域医療、地域包括ケア、AIP事業のそれぞれに関する有識者、マスメディア関係者、弁護士、各大学の学部学生代表、各1名

2) 評価方法

未来医療人材養成事業運営委員会は、達成目標の評価指標を中心に人材育成、教育活動実績、住民調査を含めた地域の状況、情報発信状況を報告書にまとめ、評価委員会委員に事前に配付する。評価委員会では事業の実施状況に対する構成員のコメントを求め、事業内容の改善のために解決すべき課題を中心に評価結果をまとめ、未来医療人材養成事業運営委員会に通知する。

3) 評価結果の事業計画見直しへの反映

事業評価委員会の評価結果で挙げられた課題について、未来医療人材養成事業運営委員会は、解決のために必要な事業計画の見直しを行い、次年度の事業計画に具体的な活動として反映し実施する。個々の課題について対応した内容とその結果を次年度の事業評価委員会に報告する。

(4) 事業実施計画

25年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 大学と地域の連携のための地域連携協議会、説明会の開催 ② 事業立ち上げのための他地域の事業の調査と視察 ③ 実施体制整備のための教職員の雇用と研修 ④ 教育拠点整備のためのコミュニティ・ヘルスケア教育研究(CHC)センターの設置 ⑤ 事業開始周知のためのキックオフ・シンポジウムの開催 ⑥ 教育機能整備のためのICT情報共有と遠隔カンファレンスシステムの導入 ⑦ コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの立ち上げと部分的実施のための備品、宿泊・交通手段の整備、講師および実習協力の依頼 ⑧ 在宅医療・地域包括ケア研修プログラム立ち上げのための地域医療機関との調整、宿舍の準備、ホームページ(HP)と研修プログラムの整備 ⑨ 総合診療専門医養成プログラムの立ち上げのための地域医療機関との調整、「暮らしの保健室」の設置、HPと募集要項の整備、講師依頼 ⑩ コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース立ち上げのための地域の保健・医療・福祉機関との調整、HPと要項の整備、講師依頼 ⑪ ICT医工学実践的リーダー育成コースの立ち上げのためのHPと要項整備、講師依頼 ⑫ CHCセンターにキャリア支援室を開設、HPとパンフレットを作成 ⑬ コミュニティにおけるAIP状況を把握するための対象地域住民の事前調査 ⑭ 事業成果の報告と評価のための報告書の作成と評価委員会の開催
26年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 大学と地域の連携のための協議会、説明会の開催 ② 事業の実施体制強化のための教職員の雇用と研修 ③ コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの拡大実施 ④ 在宅医療・地域包括ケア研修、総合診療専門医養成プログラムの開始 ⑤ コミュニティ・ヘルスケア指導者、ICT医工学実践的リーダー育成コースの開始 ⑥ 教育機能の向上のためのICT情報共有、遠隔カンファレンスシステムの改良 ⑦ 情報発信と収集のための学会への参加と他地域の視察 ⑧ コミュニティにおけるAIP状況の評価のための住民調査 ⑨ 「なごやかモデル」事業成果還元シンポジウムの開催 ⑩ 事業成果の報告と評価のための報告書の作成と評価委員会の開催
27年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 大学と地域の連携のための協議会、住民との意見交換会の開催 ② 教職員の雇用と教育能力向上のための研修(学会参加、他地域の視察) ③ 各教育プログラムとコースの実施と見直し ④ 教育機能の向上のためのICT情報共有、遠隔カンファレンスシステムの改良 ⑤ 研修機能強化のための訪問看護教育ステーション・地域医療研修薬局の設立準備室の設置 ⑥ コミュニティにおけるAIP状況の評価のための住民調査 ⑦ 市民公開シンポジウム「未来医療デザイン」の開催 ⑧ 事業成果の報告・評価のための報告書の作成と評価委員会の開催
28年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 大学と地域の連携のための協議会、住民との意見交換会の開催 ② 教職員の雇用と能力向上のための研修(学会参加、他地域の視察) ③ 教育プログラムとコースの実施および訪問看護教育ステーション、地域医療研修薬局との連携のための見直し、地域の拡大 ④ 教育機能の向上のためのICT情報共有、遠隔カンファレンスシステムの改良 ⑤ CHCセンター、「暮らしの保健室」の機能強化のための運営基盤の見直し ⑥ コミュニティにおけるAIP状況の評価のための住民調査 ⑦ 「なごやかモデル」事業成果還元シンポジウムの開催 ⑧ 事業成果の報告と評価のための報告書の作成と評価委員会の開催、修了認定
29年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 大学と地域の連携のための協議会、住民との意見交換会の開催 ② 教職員の雇用と事業の強化・継続のための研修(学会参加、他地域の視察) ③ 教育プログラムとコースの実施および継続のための見直し ④ 教育機能の向上のためのICT情報共有、遠隔カンファレンスシステムの改良 ⑤ CHCセンター、「暮らしの保健室」の機能強化 ⑥ コミュニティにおけるAIP状況の評価のための住民調査 ⑦ 総括シンポジウム「地域と育む未来医療人『なごやかモデル』」の開催 ⑧ 事業総括のための報告書作成と評価委員会の開催、修了認定

教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋市立大学医学部・薬学部・看護学部 名古屋学院大学リハビリテーション学部
プログラム・コース名	コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム (資料の表のA) (卒前キャリア教育)
対象者	医師、薬剤師、看護師、理学療法士のいずれかの国家試験受験資格取得目的で大学に在籍している学生
修業年限(期間)	医学部、薬学部は6年間 看護学部、リハビリテーション学部は4年間
養成すべき人材像	エイジング・イン・プレイス(AIP)社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成する。
修了要件・履修方法	<p><修了要件> 必修科目4単位、選択科目6単位を履修し、レポート試験に合格すること</p> <p><履修方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目の位置づけ 名古屋市立大学医学部・薬学部：必修科目 名古屋市立大学看護学部：必修科目・自由科目 名古屋学院大学リハビリテーション学部：選択必修科目 ・一部の科目は集中講義として、週末や長期休業中に開講する。 ・講義科目の一部は、双方向型会議システムによる履修とする。 ・医学部・薬学部・看護学部・リハビリテーション学部の学生を加えた学部混成のグループを1年次に形成し、グループ単位で継続して履修する。 ・学生と教員の双方による多職種連携教育(IPE)として展開する。
履修科目等	<p><必修科目></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インタープロフェッショナル・ヘルスケア論(2単位：1年次) <ol style="list-style-type: none"> ①インタープロフェッショナル・ヘルスケアの基礎：チーム論、基本技能、他 ②地域参加型学習：地域のニーズに即した課題解決型学習 2. コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ(2単位：2年次) <ol style="list-style-type: none"> ①超高齢社会の課題と地域における保健・医療・福祉サービス ②チーム医療の基礎：コミュニケーション、倫理、医療安全、他 ③チーム医療の実際：栄養サポート、緩和ケア、感染対策、他 ④地域包括ケアの実際 <p><選択科目></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティ・ヘルスケア論Ⅱ(2単位：3年次) <ol style="list-style-type: none"> ①医療・福祉情報通信技術(ICT)：個人情報管理、地域におけるICTの活用 ②高齢者の理解：高齢者の人生についての「聞き書き」 ③コミュニティ・ヘルスプロモーション演習：高齢者の生活支援企画 2. コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅰ(IPE)(2単位：4年次) <ol style="list-style-type: none"> ①地域診断：担当地域の保健医療福祉の実態把握および高齢者の健康調査 ②高齢者との共生体験(②③のいずれかを体験) ③高齢者家庭支援体験(②③のいずれかを体験) ④コミュニティ・ヘルスケア・ワークショップ 自らの専門性をふまえた多職種協働のあり方の検討 3. コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅱ(IPE)(2単位：4年次) <ol style="list-style-type: none"> ①大学・地域中核病院におけるチーム医療体験実習：地域連携実習を含む ②訪問診療・訪問看護の同行実習：診療、服薬指導、生活支援、リハビリ ③地域リハビリテーション実習：健康増進教室、体操教室、デイサービス ④「暮らしの保健室」相談対応実習

<p>教育内容の特色等 (新規性・独創性等)</p>	<p>1. 学生参加による超高齢地域の活性化 これまでの経験から、学生が超高齢コミュニティに参加すると、引きこもりがちな高齢者の社会参加や健康づくりへの気運が高まる。この効果をキャリア教育に活かし、学生をAIPコミュニティづくりに参加させることで、地域で働く意義への気づきや使命感の自覚をもたらす。</p> <p>2. 継続的な多職種連携教育 医学部、薬学部、看護学部、理学療法学部の学生は、医療への関心は同じであっても、目指す方向や考え方の視点が異なる。その学生達が入学後の早期から共に学ぶことで互いの価値観を尊重し、各職種の専門性や役割の違いを認識するという貴重な機会となる。その成果は、名古屋市立大学の初年次導入教育である「医薬看連携早期体験学習」で明らかになっており、本事業は、それを高学年における多職種連携教育に発展させるプログラムである。</p> <p>3. ICTを活用した先進医療の教育 日本の高齢化はさらに進み、死亡者数も増加するため、地域における保健医療福祉サービスはその重要性を増す。そこには、人と人とのつながりを大切にする姿勢とともに、ICTを活用した先進的なサービスが不可欠である。本プログラムは、そのような超高齢社会に即した医療サービスを提供し得る人材の育成を目指す。</p>						
<p>指導体制</p>	<p>名古屋市立大学の全学部、名古屋市立大学病院、名古屋工業大学工学部、名古屋学院大学リハビリテーション学部・経済学部(総合政策学科)、コミュニティ・ヘルスケア教育研究センターの教員、地域中核病院の医療専門職者、訪問診療・訪問看護の実施者、地域包括ケアに関わる行政職、ボランティアグループやNPOなど、地域の保健医療福祉を担う人々が教育・指導に参加する。</p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成25年10月</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H25年度</p>	<p>H26年度</p>	<p>H27年度</p>	<p>H28年度</p>	<p>H29年度</p>	<p>計</p>
<p>医学部</p>		<p>95</p>	<p>95</p>	<p>95</p>	<p>95</p>	<p>95</p>	<p>475</p>
<p>薬学部</p>		<p>60</p>	<p>60</p>	<p>60</p>	<p>60</p>	<p>60</p>	<p>300</p>
<p>看護学部</p>		<p>80</p>	<p>80</p>	<p>80</p>	<p>80</p>	<p>80</p>	<p>400</p>
<p>リハビリテーション学部</p>		<p>0</p>	<p>80</p>	<p>80</p>	<p>80</p>	<p>80</p>	<p>320</p>
<p>計</p>		<p>235</p>	<p>315</p>	<p>315</p>	<p>315</p>	<p>315</p>	<p>1,495</p>

教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋市立大学病院
プログラム・コース名	在宅医療・地域包括ケア研修プログラム (初期研修 地域保健医療) (資料の表のB)
対象者	初期臨床研修医
修業年限(期間)	2年
養成すべき人材像	エイジング・イン・プレイス(AIP)社会の新しい医学・医療に対応し、その質の向上に貢献するために、全ての医師に求められる在宅医療と地域包括ケアの基本的な能力を有し、コミュニティ・ヘルスケアのリーダーに相応しい能力のある医師を養成する。
修了要件・履修方法	必修科目を履修し、初期臨床研修全体の修了要件を満たすこと。 科目の講義を受講し、1か月以上の地域保健医療研修を行う。
履修科目等	1. 講義・演習(各2単位、計12単位) ①地域包括ケアシステム学特論 ②緩和・終末ケア学特論 ③総合認知症学特論 ④コミュニティ・ヘルスケア演習 ⑤医療ICT管理学 ⑥未来医療デザイン 2. 地域保健医療研修 超高齢団地における4週間の専門別在宅医療チームローテート研修(4単位)
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	1. AIPコミュニティづくりを通じた実践研修 大学参画によりAIPコミュニティづくりを進める高齢団地に1か月間滞在し、24時間対応で在宅医療と終末期ケアに参加する。また、専門別在宅医療チームをローテート研修し、在宅医療を基本とする新しい医療環境の様々なニーズへの対応を研修する。 2. 医療と医工学の多職種協働による未来医療体験 総合診療専門医研修プログラム、コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース、ICT医工学の実践的リーダーの育成コースと連携し、薬剤師、看護師、保健師、歯科医師、理学療法士、医工学エンジニアと多職種協働で在宅医療チーム研修を行う。トータルケアプランの決定・評価、事前指示書の導入を含む地域包括ケアのリーダーシップ、ICTによる情報共有や在宅モニタリングシステムの構築、デザインなどを体験する。
指導体制	1. 指導医等 名古屋市立大学の全研究科、名古屋市立大学病院、名古屋工業大学工学研究科、名古屋学院大学リハビリテーション学部・経済学部(総合政策学科)の教員、コミュニティ・ヘルスケア教育研究(CHC)センターの医師、薬剤師、看護師、理学療法士、医工学エンジニアからなる教員、地域中核病院の医療専門職、訪問看護師、地域包括ケアに関わる行政職、ボランティアグループやNPOなど、地域の保健医療福祉を担う人々が協力して指導に当たる。 2. 在宅医療チーム研修 高次脳機能評価、運動機能評価、薬剤管理、口腔ケア、嚥下・栄養、ICT支援の専門別の在宅医療チームをローテートし、在宅医療の様々なニーズへの対応を研修する。双方向会議システムによる専門別検討会に参加し、地域連携による課題解決を経験する。 3. 「暮らしの保健室」 他の履修者、ボランティアと共に交替で住民からの相談に応じ、地域包括ケア連絡会議に出席して事例の課題解決を検討する。

受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	初期研修医	0	12	24	24	24	84
	計	0	12	24	24	24	84

教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋市立大学病院
プログラム・コース名	総合診療専門医研修プログラム (後期研修) (資料の表のC)
対象者	後期研修医、初期研修を修了した大学院生、一般医師
修業年限(期間)	3年
養成すべき人材像	エイジング・イン・プレイス(AIP)社会の医学・医療の発展と向上を担う総合診療専門医を養成する。プログラム修了者は、総合診療専門医としての臓器を限定しない診療、複合疾患、高齢者に対する全人的な対応能力に加え、① AIPのための多職種協働とICTによる保健・医療・福祉システムの構築能力、② AIPコミュニティの質を保証する疫学研究、医工連携研究とエビデンスの発信能力を習得する。
修了要件・履修方法	必修科目と選択科目の履修、疫学・介入研究や医工連携研究への参画(1件以上)、経験目標の達成(在宅看取り7例、認知症包括ケア30件)、総合診療専門医資格の取得
履修科目等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院研修(名古屋市立大学病院および関連施設での入院・外来診療) 総合診療科(18か月)、小児科(3か月)、救急(3か月)、選択科目(6か月) 2. 在宅医療・地域包括ケア研修 病院研修と並行して3年間週2回：多職種協働在宅医療チーム研修(30単位) および専門テーマ別チームのローテーション研修(8単位) 3. 研究への参加：病院研修と並行して実施 調査・疫学研究、ICT医療活用などの研究に参加(20単位) 4. 講義・演習(各2単位、計12単位) ①地域包括ケアシステム学特論 ②緩和・終末ケア学特論 ③総合認知症学特論 ④コミュニティ・ヘルスケア演習 ⑤医療ICT管理学 ⑥未来医療デザイン特論
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<ol style="list-style-type: none"> 1. AIPコミュニティづくりを通じた実践研修 病院研修と並行してAIPコミュニティづくりに参画し、多職種協働とICTによる保健・医療・福祉システムの構築を実践研修する。在宅看取りや地域包括ケアのコーディネート、継続的な地域との関わりによる、住民参加による質の高いコミュニティづくり、介護予防のヘルスプロモーションを研修する。 2. 地域全体を病棟とみなす多職種連携協働チーム研修 多職種協働在宅医療チームで症例を担当し、訪問回診とカンファレンスを行う。ICT情報共有システムにより、大学病院の専門医等にコンサルテーションを行い、指導・支援を受ける。 3. AIPコミュニティの質を保証する研究とエビデンス発信能力の育成 コミュニティベースの老化抑制・介護予防の疫学・介入研究、医工連携研究に従事し、エビデンスの発信を行う。 4. 医工学研究者を含む多職種連携研修 コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース、ICT医工学の実践的リーダーの育成と連携し、医工学研究者を含めた多職種協働によりICT医工学の活用による課題解決に取り組む。

指導体制	<p>1. 指導医等 名古屋市立大学病院総合診療科の部長以下指導医5名と、小児科、救急、選択科目の指導医が連携して総合診療を指導する。コミュニティ・ヘルスケア教育研究(CHC)センターの医師、薬剤師、看護師、理学療法士、医工学エンジニアからなる教員チームが在宅医療・地域包括ケアを指導する。講義演習には、名古屋市立大学の全学部と研究科、大学病院、名古屋工業大学工学研究科、名古屋学院大学リハビリテーション学部・経済学部(総合政策学科)の教員が参画する。</p> <p>2. 多職種協働チーム研修 CHCセンターは週2回のケース検討会を開催し、ICT情報共有ネットワークから集まる地域からの医療・介護の要請に対応して、多職種協働チームを組織する。チームは情報共有システムで連携し、CHCセンターおよび大学病院のスタッフから指導・支援を受ける。</p> <p>3. 専門テーマ別のローテート研修 高次脳機能評価、運動機能評価、薬剤管理、口腔ケア、嚥下・栄養、ICT支援の専門テーマ別のチームをローテートする。テーマ毎の別検討会には、双方向会議システムにより、大学、地域医療機関も参加し、情報提供や地域連携による対応策の立案を行う。</p> <p>4. 「暮らしの保健室」 他の履修者、ボランティアと共に交替で住民からの相談に応じ、地域包括ケア連絡会議に出席して事例の課題解決を検討する。</p> <p>5. 研究指導 大学またはCHCセンターの教員の指導により、履修者は1年以内に研究テーマを選び臨床研修と並行して研究に取り組む。</p>																																			
受入開始時期	平成26年4月																																			
受入目標人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>H25年度</th> <th>H26年度</th> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学院生</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>後期研修医</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>一般医師</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>15</td> <td>19</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計	大学院生	0	2	2	3	3	10	後期研修医	0	3	3	4	8	18	一般医師	0	3	3	8	8	22	計	0	8	8	15	19	50
対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計																														
大学院生	0	2	2	3	3	10																														
後期研修医	0	3	3	4	8	18																														
一般医師	0	3	3	8	8	22																														
計	0	8	8	15	19	50																														

教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋市立大学大学院医学研究科・薬学研究科・看護学研究科
プログラム・コース名	コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース (資料の表のD) (大学院コース)
対象者	医師、薬剤師、看護師、理学療法士のいずれかの免許を有し、名古屋市立大学医学研究科修士課程・博士課程、薬学研究科博士前期課程・博士後期課程・博士課程、看護学研究科博士前期課程・後期課程のいずれかに在籍する大学院生または同課程の科目等履修生
修業年限(期間)	2年
養成すべき人材像	エイジング・イン・プレイス(AIP)社会の医学・医療の発展と向上を担うコミュニティ・ヘルスケア指導者を養成する。コース修了者は、多職種協働による在宅ケア、認知症ケア、緩和・終末期ケア、コミュニティとの協働による地域包括ケアのコーディネートを含み、超高齢社会の多様なニーズに対応し、かつ、未来医療のデザインや開発に貢献し得る。
修了要件・履修方法	修了要件：必修科目10単位、選択科目6単位以上、合計16単位以上を履修し、筆記試験・レポート試験に合格した者を本コースの修了者とする。 履修方法：履修者は、地域包括ケアの基礎(必修科目)を修得したうえで、自らの関心に応じて、緩和・終末期ケアや認知症ケアの実践、ICT医工学の活用、臨床研究に必要な科目を選択して履修する。また、履修者の多くが社会人であることが想定されるため、講義科目と演習科目の一部に、双方向および映像配信型の遠隔講義サービスを導入する。
履修科目等	<p><必修科目></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステム学特論(2単位) 2. 緩和・終末期ケア学特論(2単位) 3. 総合認知症学特論(2単位) 4. コミュニティ・ヘルスケア実習(4単位) <p><選択科目></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和・終末期ケア学演習(2単位) 2. 緩和・終末期ケア実習(4単位) 3. 総合認知症学演習(2単位) 4. 認知症ケア実習(4単位) 5. 医療ICT管理学(2単位) 6. コミュニティ創成特論(2単位) 7. 未来医療デザイン特論(2単位) 8. 臨床研究マスタープログラム(6単位)
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	<ol style="list-style-type: none"> 1. AIPコミュニティづくりを通じた実践研修 大学参画によりAIPコミュニティづくりを進める超高齢団地を研修フィールドとして、在宅医療・地域包括ケア研修を行う。長期間継続的に地域と関わり、在宅看取りや地域包括ケアのコーディネート、住民参加による質の高いコミュニティづくり、介護予防のヘルスプロモーションを実践的に研修する。 2. 地域全体を病棟とみなす多職種連携協働チーム研修 多職種協働在宅医療チームで症例を担当し、訪問回診とカンファレンスを行う。ICT情報共有システムにより、大学病院の専門医等にコンサルテーションを行い、指導・支援を受ける。 3. 医工学研究者を含む多職種連携研修 コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース、ICT医工学の実践的リーダーの育成と連携し、医工学研究者を含めた多職種協働によりICT医工学の活用による課題解決に取り組む。

指導体制	<p>1. 指導教員等 名古屋市立大学の全研究科、名古屋市立大学病院、名古屋工業大学工学研究科、名古屋学院大学リハビリテーション学部・経済学部(総合政策学科)の教員、コミュニティ・ヘルスケア教育研究(CHC)センターの医師、薬剤師、看護師、理学療法士、医工学エンジニアからなる教員その他、地域中核病院の医療専門職、訪問看護師、地域包括ケアに関わる行政職、ボランティアグループやNPOを含む、地域の保健医療福祉を担う人々が協力して指導に当たる。</p> <p>2. 多職種協働チーム研修 CHCセンターは週2回のケース検討会を開催し、ICT情報共有ネットワークから集まる地域からの医療・介護の要請に対応して、多職種協働チームを組織する。チームは情報共有システムで連携し、CHCセンターおよび大学病院のスタッフから指導・支援を受ける。</p> <p>3. 専門テーマ別チームのローテーション研修 高次脳機能評価、運動機能評価、薬剤管理、口腔ケア、嚥下・栄養、ICT支援の専門テーマ別のチームをローテーションする。テーマ毎の別検討会には、双方向会議システムにより、大学、地域医療機関も参加し、情報提供や地域連携による対応策の立案を行う。</p> <p>4. 「暮らしの保健室」 他の履修者、ボランティアと共に交替で住民からの相談に応じ、地域包括ケア連絡会議に出席して事例の課題解決を検討する。</p>						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	医学研究科 大学院生	0	10	10	10	10	40
	薬学研究科 大学院生	0	10	10	10	10	40
	看護学研究科 大学院生	0	5	5	5	5	20
	一般医師	0	2	2	3	3	10
	計	0	27	27	28	28	110

教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋工業大学大学院工学研究科	
プログラム・コース名	ICT医工学の実践的リーダーの育成 (大学院コース)	(資料の表のE)
対象者	工学研究科博士前期課程1年、2年	
修業年限(期間)	2年	
養成すべき人材像	エイジング・イン・プレイス(AIP)社会の医学・医療の発展と向上を担うICT医工学の実践的リーダーを育成する。コース修了者は、人間味ある医療・福祉マインドと、ICT医工学に関する高度な知識と新技術創造力を有し、在宅医療・介護ネットワークの広範的な管理者として、医療スタッフとともにICT医工学を先導し実践できる。	
修了要件・履修方法	カリキュラムに沿って30単位以上履修し、ICT医工学及びコミュニティ創成に関連する修士学位論文を提出し学位審査に合格すること。	
履修科目等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療ICT管理学(コース必修2単位) 2. コミュニティ創成特論(コース必修2単位) 3. 未来医療デザイン特論(コース必修2単位) 4. 経営管理特論、産学連携技術特論、知的財産権技術開発特論(3科目から1科目選択必修2単位) 5. ヘルスケアコミュニティ創成実習Ⅰ、Ⅱ(必修10単位) 6. 修士学位研究に関連する大学院科目(6科目選択必修12単位) 	
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<ol style="list-style-type: none"> 1. AIPコミュニティづくりを通じた実践研修 大学参画によりAIPコミュニティづくりを進める超高齢団地で、工学研究科大学院学生を対象とするICT医工学の研修を行う。高齢者の家庭や在宅医療の現場にICT技術を導入し、それを通じて高度な在宅医療臨床情報システム、医療情報管理のプライバシー保護やセキュリティ(デジタルフォレンジック)技術、更に先進的なM2M(machine-to-machine)ネットによる医療情報モニタリングや介護ロボットなどの未来型ICTを学ぶ。 2. 医療と医工学との多職種連携教育 コース必修科目として、総合診療専門医研修プログラム、コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースとの共通科目を、医・薬・看の大学院生や後期研修医と合同で受講する。医療系の専門家による指導や助言、医療系学生との双方向教育を通じて専門的知見や技術を習得する。超高齢団地での実習では、医師、薬剤師、看護師、保健師、歯科医師、理学療法士との多職種協働チームで、在宅医療へのICTの導入やICTによる課題解決に取り組み実践力を磨く。このような多職種が協働する教育環境の中で、人間味ある医療・福祉マインドを醸成し、ICT医工学に関する知力と新技術創造力を育成して、医療スタッフとともにICT医工学を先導し実践する技術者を養成することがコースの特色である。 	

指導体制	<p>1. 指導教員等 名古屋工業大学工学研究科のICT医工学とコミュニティ創成を専門とする教員・特任教員、名古屋工業大学コミュニティ創成教育研究センターの教員、名古屋市立大学の全研究科、名古屋市立大学病院、名古屋学院大学リハビリテーション学部・経済学部(総合政策学科)の教員、地域中核病院の医療専門職、訪問看護師、地域包括ケアに関わる行政職、ICT医工学関連産業の研究開発技術者、ボランティアグループやNPOを含む、地域の保健医療福祉を担う人々による協働指導を行う。</p> <p>2. 多職種協働チームによる実践研修 超高齢団地では、総合診療専門医研修プログラム、コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースと連携し、高度な在宅医療情報システム、先進的なM2Mネットによる医療情報モニタリングや介護ロボットなどの未来型ICTの応用技術と活用の実践研修を行う。</p>						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	工学系 大学院生	0	8	8	8	8	32
	計	0	8	8	8	8	32

地域と育む未来医療人「なごやかモデル」の全体像

図1：「なごやかモデル」のフレームワークとオペレーション



表：教育プログラム・コースの特色・アウトカム

プログラム コース名	A コミュニティ・ヘルスケア 卒前教育プログラム	B 在宅医療・地域包括ケア 研修プログラム	C 総合診療専門医 研修プログラム	D コミュニティ・ヘルスケア 指導者養成コース	E ICT工医学の 実践的リーダーの育成
開 講	名古屋市立大学 名古屋学院大学	名古屋市立大学病院	名古屋市立大学病院	名古屋市立大学大学院	名古屋工業大学
対 象	学部生	初期臨床研修医	初期臨床研修修了医師	医療系専門職大学院生	工学研究科博士前期課程
多職種協働	①	◎	◎	◎	○
地域診断	①	○	◎	◎	△
地域活性化	①	○	◎	◎	①
地域ヘルスプロモーション	①	○	◎	◎	△
認知症対応	△	①	◎	◎	△
緩和・終末期ケア	△	①	◎	◎	△
在宅医療チーム構築	△	①	◎	○	△
地域包括ケア構築	△	①	◎	◎	△
ICT工医学活用		△	○	○	◎
疫学・介入研究			○	○	△
医工連携研究			○	①	○

習得レベル ◎指導できる ○実施できる ①指導下で実施できる △説明できる

図2：運営体制・組織図

